©Masaaki Tomitori

©Makoto Kamiya

第208回定期演奏会「夢～恋・幻覚・狂乱～」

2025年1月11日（土）13：45開場　14：30開演
愛知県芸術劇場 コンサートホール
指揮/広上淳一　ヴァイオリン/神尾真由子*
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35*
ベルリオーズ：幻想交響曲 Op.14

《くるみ割り人形》でちょっと早いクリスマス気分（かなり早い、でしょうか・・・・）をお楽しみいただいている本日に続きまして、次回・第208回定期演奏会は、年明けの1月11日。テーマに《夢　～恋・幻覚・狂乱～》と題しまして、同じ「夢」でも本日の童心や幸福感とは全然違う世界観を、2つの傑作でお楽しみいただきます。

まず前半は、本日もお聴きいただいているチャイコフスキーが、傷心旅行中に作曲したと言われている、ヴァイオリン協奏曲。独奏には、ロシア音楽にも素晴らしい冴えを魅せる名手・神尾真由子さんをお迎えします。難関・チャイコフスキー国際コンクールで見事優勝され、世界的に活躍を続けてきた神尾さんの鮮やかで深い音楽は必聴!

そして後半は、ベルリオーズの《幻想交響曲》。ある芸術家の夢・・・・というより妄想を音楽で繰り広げてみせる〈怪作〉です。オーケストラに渦巻く色彩感と奇抜な曲想とが、聴き手の想像力をぐいぐい広げてくれる、とても面白い（そして昂奮必至の!）傑作。

指揮台にお迎えするのは、マエストロ広上淳一です。世界の名門オーケストラに客演を重ねつつ、日本各地のオーケストラで地域に根付いた音楽活動に取り組む広上さんは、その堂々と豊かな音楽づくりが、聴き手からも演奏家からも絶大な信頼と賞賛を集める名指揮者。セントラル愛知響の新春は、広上さんとの完全燃焼から!

◆愛の破綻と、あたらしい愛　――チャイコフスキーの遍歴から

《くるみ割り人形》の作曲家でもあるピョートル・チャイコフスキー（1840～1893）ですが、実生活では家庭的なクリスマス・パーティどころか、「結婚」が人生最大の危機となったといいますから、真逆ではあります。しかしその苦悩から逃れる過程で、次回お聴きいただくヴァイオリン協奏曲が生まれたのですから、人生とは不思議なものです。

1877年、チャイコフスキーにとって最初のバレエ音楽《白鳥の湖》を書いていた頃、彼は9歳下で元教え子の女性から熱烈な求愛を受けます。同性愛を隠していた彼は、「兄のように妻を愛せるのでは・・・・」と考えながら、押し切られるように結婚してしまうのですが、うまくいくわけがありません。結婚はたった80日で破綻。彼はすべてのしがらみを振り払うように、ロシアを逃げだします。

チャイコフスキーは、風光明媚な土地をあちこち移りながら、創作に打ち込んで心身の健康を取り戻していきました。・・・・そんな頃、スイスのレマン湖畔にある保養地クララランに滞在していた彼のもとに、かねて熱愛している若い男友達、ヴァイオリン奏者のコーテクがやって来ました。

彼がそのときたまたま持参していた楽譜に、ラロの《スペイン交響曲》がありました（交響曲というタイトルですが、実質的にはヴァイオリン協奏曲）。その楽譜を読んでみたチャイコフスキーは「自分もぜひ協奏曲を!」と発奮します。ヴァイオリンの難しい演奏テクニックについても、コーテクから助言を受けながら作曲を始め・・・・かくして完成したのが、次回お聴きいただくヴァイオリン協奏曲です（1878年完成）。

◆ウィーンも仰天した濃厚　――偏見を超えて、世界を制覇した傑作

ところが――はじめに初演を依頼された名匠アウアー（門下からハイフェッツなど優秀な奏者を輩出した名手です）には、「難しすぎて演奏不能」と却下されてしまいます。チャイコフスキーの想像力から生まれた超絶技巧は、当時随一の名手もたじろがせてしまったのです。

そこで、ライプツィヒ音楽院の教授・ブロツキー（やはり名手です）に頼んでみると・・・・こちらは大絶賛。1881年12月、彼の独奏とリヒター指揮ウィーン・フィルによって世界初演されました。

しかし、苦難はまだまだ続きます。ウィーンでの世界初演は、凄まじい野次で迎えられたのです。というのも、この作品に満ちた濃厚な味わい――現代の私たちには魅力でしかない、ロシア風の味わいと西欧の華麗を融け合わせたような独創的な音世界は、保守的なウィーンの聴衆には、飲んだことのないきついお酒のようなショックだったそうで・・・・。

しかし、偏見と先入観はとけてゆくもの。初演者ブロツキーはめげずに各地で再演を繰り返し、はじめ初演を断った名手アウアーも作品の真価に気づいて演奏するようになり、やがてこの作品は世界を制覇する人気作となったのでした。

濃厚な第1楽章から、哀愁をおびた音世界がうっとりとひらかれてゆく第2楽章、そして熱狂的なロシア舞曲風のリズムにのせて、独奏

ヴァイオリンとオーケストラが躍動を競い合う第3楽章‥‥この情熱的なフィナーレからも、甘やかな情緒が溢れ出してくるのも、チャイコフスキーの素晴らしいところです。ぜひ、神尾さんとの音楽を全身で浴びてみてください!

◆音楽史に輝く奇才・ベルリオーズ、その破天荒な人生

次回定期の後半は《幻想交響曲》。フランスの作曲家エクトル・ベルリオーズ(1803〜1869)の大人気作ですが、これがまた、とんでもなくぶっ飛んだ音楽です。

なにより、ベルリオーズご本人が相当にぶっ飛んだ奇才でした。丹治恆次郎訳『ベルリオーズ回想録』1・2[白水社、1981年]を読むと、まぁ目を疑うようなエピソードの連続で、こちらの感覚が麻痺してくるくらい(付け加えておくと、ぶっ飛んでいるのはベルリオーズだけではなかった、ということもよく伝わってくる、強烈に面白い本です。古書がとても手に入りにくいので、図書館でぜひ。国立国会図書館デジタルコレクションに登録すると家のPCでも読めます)。

ベルリオーズは生涯、激しい情熱に衝き動かされて生きた人でした。そして、代表作《幻想交響曲》には、ベルリオーズの実体験も強く反映されています。次回定期のテーマ《夢 〜恋・幻覚・狂乱〜》は、まさにこの曲の内容をぴたりと要約しているのです。

◆叶わぬ愛の果てに ——妄想と狂乱の大交響曲!

《幻想交響曲》には〈ある芸術家の生涯のエピソード〉という副題がついています。全5楽章でその「芸術家」(ベルリオーズがモデルです)の物語が描かれてゆく作品、というわけです。

——あまりに感受性豊かな芸術家が、失恋の苦しみに耐えかねて、アヘンによる自殺を図るも失敗。麻薬のひきおこす幻想のなかには、愛する女性の姿がつねに現れます(彼女をあらわす〈固定楽想〉が、全曲にわたって何度も何度も登場するので、お聴きになるとすぐに分かるはず)。

《夢、情熱》という第1楽章から情感が激しく美しく爆発します。第2楽章《舞踏会》でも、美しく響くワルツのなかについ、愛する人の影をみてしまう主人公。‥‥第3楽章《野の風景》でも、牧童が笛を吹きかわすのどかな光景に、ふと彼女の影が現れます。

さらに妄想は進みます。彼はなんと、夢想のなかで愛する人を殺してしまい、死刑台に引き出されるのです。その怖ろしい第4楽章《断頭台への行進》で、彼はギロチンの一撃を食らって終わり‥‥ではなく、最後の第5楽章《サバト(魔女の饗宴)の夢》で、悪魔や亡霊、魑魅魍魎どもの大宴会に叩き込まれるのです。そこでも聴こえてしまう、愛する人のあの主題は、今や怖ろしく醜い姿となっていて‥‥音楽は凄まじいエンディングへとなだれこんでゆくのです。

こうした妄想を、よくもまぁ、というくらい巧みな楽器表現や奇抜な奏法を駆使しながら、まったく聴き飽かせずに最後の大狂乱まで聴き手を引きずり込んでゆくのですから、実に面白い交響曲です。

◆音楽が結んだ愛 ——ベルリオーズ、その後

ちなみに、この曲には《レリオ、あるいは生への回帰》という続編があります。こちらは次なる恋にも破れたベルリオーズが、絶望のあまり自殺を図ろうとして思いとどまった‥‥という経験をもとに書いた、語り手と独唱・合唱つきの大作です。こちらも力のこもった怪作なので、《幻想交響曲》の予習として併せてお聴きいただければ(CDも多数あります)。

ところで、実際のベルリオーズは、一目惚れしてしまった女性——大人気スター俳優として大人気、高嶺の花だったハリエット・スミッソンに失恋したことで《幻想交響曲》を書きました。この初演が大成功を収めた数年後‥‥《幻想交響曲》と続編《レリオ》があわせて演奏された折、なんとそのコンサートに、当のスミッソンが聴きに来たのです。

彼女は、あらためてベルリオーズの強烈な想いに気づかされて驚き‥‥(途中は省略しますが)なんと二人は結婚するのです。スターに憧れた無名の作曲家が、巨大な交響曲に思いをぶつけて、それで実際に憧れの人と結ばれてしまうのですから、もうめちゃくちゃです。実際に結婚した後のてんまつについては、語るも忍びないので、ご想像にお任せしますが‥‥。

そんな《幻想交響曲》、オーケストラに思いのたけをぶつけきった作品だけに、当然ながら演奏も簡単ではないのですが、そこはマエストロ広上とセントラル愛知響の真っ向勝負。起伏も凄まじい音絵巻を目覚ましく聴かせてくれるはず。ぜひ楽しみに、次回もこのホールでお会いいたしましょう!

やまの たけひろ
山野雄大

Profile

ライター[音楽・舞踊評論]。『音楽の友』『バンドジャーナル』など雑誌・新聞への寄稿をはじめ、NHK・FM「オペラ・ファンタスティカ」他ラジオ出演も。第一生命ホールでのコンサートシリーズ《雄大と行く 昼の音楽さんぽ》ナビゲーターを務めたほか、CD解説、オーケストラやバレエ公演の解説、歌詞対訳など多数。朝日カルチャーセンター新宿教室でバレエ音楽講座を開講中。